

## 全学向け日本語コースにおける漢字指導 ー初級後半レベルの日本語学習者に対する漢字指導のケーススタディーー

高瀬公子・酢谷尚子・齋藤ますみ・桑原陽子

### 要旨

全学向け日本語コースは本学留学生センターの日本語コースの一つである。初級者向けの日本語Ⅰから上級者向けの日本語Ⅳまで4レベルある。このコースでは日本語Ⅱの中で『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』をテキストとして漢字指導を行っている。本稿では、まず、現在の指導法に至った経過を述べる。次に、本学の留学生のニーズにかなった漢字選定・漢字指導を探るために教材の比較分析をする。また学習者に対して行った個別インタビューについて述べる。検討の結果、見出された改善点を4つ挙げる。第1に、追加すべき学習漢字として生活上、役立つと思われる漢字「始、留、文、正、特、門、験、議、用、不、品、場、福、井」を加える。第2に漢字の成り立ちを段階的に説明する方法を述べる。第3に音読み・訓読みは既習語を使ってできるだけ同時に教える。第4として漢字系の学習者が多い日本語Ⅱクラスでは、字体が常用漢字と中国で使う簡体字とで異なるものがあるので、書き方の指導も必要である。

キーワード：漢字指導 非漢字系学習者 漢字系学習者 学習漢字選定

### 1. はじめに

本学留学生センター開講の日本語コースの1つである全学向け日本語コースでは、2003年後期から文法クラスから独立した漢字クラスが開講され、非漢字系学習者を中心とした漢字指導が開始された（全学向け日本語コースの詳細は次節参照）。これは、漢字を学習したいという非漢字系学習者の要望に応えたもので、授業時間数は週1コマ（90分）のみであった。その後、2007年前期からは、初級後半と中級前半の文法クラスの中に漢字指導の時間を設け、現在まで短時間ではあるが週5コマ連続して漢字指導を行っている。

本稿は、今後の漢字指導に資する知見を得るために、2007年度以降に行われてきた初級後半文法クラス内での漢字指導について総括する。まず、第3節で、2007年度以降の漢字指導を概説し、漢字指導の現状を報告する。次に第4節で、漢字テキストの選定および学習漢字選定等、現在の漢字指導シラバスの問題点と課題を述べる。できるだけ具体的に考察するため、複数の漢字指導用教材との比較を行う。第5節では、2009年前期に行った学習者への聞き取り調査の結果を報告する。初級文法クラスには非漢字系学習者と漢字系学習者（中国人学習者）が混在している。そのため、両者のニーズにあった漢字指導が行われていたかを検証するため、学習者から直接意見を聞いた。

以上のように、教材分析と学習者からの意見の双方をふまえ、今後の指導のあり方について考察したい。

## 2. 全学向け日本語コースの概要

このコースは本学に在学するすべての留学生を対象に、日常生活に必要な日本語や、大学の授業を受けるのに必要な日本語の力を養うことを目的として開講されるもので、単位は認定されない。本学に在籍する留学生数は毎年ほぼ200人程度で、4～5分の1の学生が本コースで学ぶ。中国からの学生が半数以上を占めるが、ほかに韓国・タイ・フィリピン・シリア・UAEなどのアジア圏、ポーランド・フランスなどヨーロッパ圏の学生も見られる。受講生の学内での所属は、大学院生が最も多く、次いで研究生（大学院入学を目的とする）、国際総合工学特別コース生が占めている。大学院生は工学系が多数を占める。英語で授業を受けることができ、英語で論文を書く学生が多い。

全学向け日本語コースはⅠ～Ⅳ（以後日本語Ⅰ～Ⅳとする）のクラスがあり、初めて受講する学生は、学期初めに行われるプレースメントテストを受験し、その成績によって受講可能なコースが決定される。受講したコースに合格すれば、次のレベルに進むことができる。日本語Ⅰは『みんなの日本語初級Ⅰ』をテキストとし、日本語Ⅱは『みんなの日本語初級Ⅱ』をテキストとする。日本語Ⅲ・Ⅳは毎回担当教師が話し合っ、テキストを決定している。

本稿で総括するのは「日本語Ⅱ」における漢字指導である。

## 3. 漢字指導の概要

### 3-1. 使用教材

2007年から2008年までは『みんなの日本語初級Ⅰ漢字練習帳』（以後『漢字練習帳』とする）を使用した。

テキストで取り上げている218字すべてを学習対象とし、資料1に示すように1日に5～8字導入し、3回毎に復習の日を設けた。補助教材としてテキストの漢字シートに例示されていることばや文を基に、フラッシュカードを作成した。カードの表に漢字混じりのことばや文、裏に読み方をひらがなで書いた。例えば、7・8課の「晩」の場合、「今晚」「晩ごはんを食べます」の2枚のフラッシュカードを作成した。

2009年前期は『みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語版』（以後『漢字英語版』とする）に変更した（変更理由は第4節参照）。資料2に示すように1日で1ユニットの半分を学習し、2ユニット終了毎に復習の日を設けた。フラッシュカードは2007年に作ったものを順序を変えてそのまま使用した。その際、『漢字英語版』に取り上げられていない漢字は省き、不足するカードは新たに作った。

### 3-2. 授業の進め方

授業では漢字の読みの学習のみを行い、書くことの指導は行わなかった。漢字を書くことは、非漢字系の学習者にとって負担が大きすぎると判断したからである。また、最近ではパソコンが多用されており、読むことが出来、複数の候補から文脈に合った正しい漢字を選べれば、手書きができなくてもパソコンを使って漢字を書くことが可能だからである。

授業は次のように進めた。「休む」を例にとると、木に寄りかかる人の絵を示すとともに、字形

が似ている「体」との見分け方を説明した。次にフラッシュカードの表(漢字)を示し、学生に読ませる。続いて裏(ひらがな)を見せ、長音の有無、濁音が清音かについて注意を喚起した。また、「学」は「学生」の場合は「がく」と読むが、「学校」の場合「がっ」になるという、音読みで促音になる規則なども必要に応じて説明した。

### 3-3. 評価方法

当初、漢字に対する学習意欲を引き出すため、各学期3回の復習テストと期末テストのいずれにも10パーセント程度、漢字の読み問題を出題した。しかし、漢字系の学生と非漢字系の学生の間で点数の格差が生じてしまい、不公平感があつた。そこで、2008年後期から、漢字系の学生には漢字の読み方を平仮名で書かせる一方、非漢字系の学生には多肢(4択)選択で読み方を問う問題にした。また、漢字の読み問題の点数は配点に加え、100点+10点という形で表示した。

## 4. 漢字指導シラバスの問題点と課題

### 4-1. 『漢字英語版』を選択した経緯と課題

2009年前期から『漢字英語版』をテキストとして使用している。日本語Ⅱクラスの非漢字系の学習者には、『漢字練習帳』より『漢字英語版』のほうが学習しやすいのではないかと考えたからである。

『漢字英語版』は「漢字や漢字語はよく知っている言葉や馴染みのある文や文脈の中で学習し、それと並行して漢字や漢字語の体系にも注目するという形で勉強するのがもっとも有効な勉強法だ」(新矢他 2003 p. IX) という考えに基づき作られている。

『漢字英語版』のほうが『漢字練習帳』より良いと考えた理由は2点ある。

第1に、既習語彙のある日本語Ⅱクラスの学生には、『漢字英語版』の提出順序のほうが覚えやすいと考えられることである。『漢字英語版』はユニット1~20で構成されていて、ユニット15までは『みんなの日本語初級Ⅰ』のテキストを5課ごとに区切り、ユニット16~20はそれぞれ『みんなの日本語初級Ⅰ』の21~25課の漢字を取り上げている。ひとつのユニットで8~16字、合計で220字となっている。『漢字英語版』は『漢字練習帳』に比べると、音・訓が同時に提出されている漢字が多く、動詞を表す漢字や形容詞を表す漢字など関連する言葉がまとめている。例えば、「行」は「来」とともにユニット5で取りあげられ、「いく」「こう」両方の読み方が提示されている。また、「書」は「聞」「読」「見」など動詞をあらゆる漢字とともにユニット9で「手紙を書きます」の形で取り上げられている。

一方、『漢字練習帳』は『みんなの日本語初級Ⅰ』の進度にあわせ、既習の句型・語彙を使用して段階的に漢字指導することを目的として作られた教材である。漢字の提出順序はテキストの本冊に出てきた順で、かつ出てきた語彙のみである。例えば前述の「行」は1・2課に出てきて「銀行」の中での「こう」、「書」は3・4課に出てきて「辞書」の中で「しょ」の読み方のみが示されている。

第2に、『漢字英語版』には「Introduction to Kanji」があり「絵から漢字ができました」な

ど漢字の成り立ちを説明する項目がある。また、「漢字忍者」というコーナーが4箇所挿入されていて、特に「漢字忍者4」では偏や旁や冠などの部首ごとに漢字がまとめてあり、その偏や旁や冠などの意味が英語で書いてある。偏や旁や冠などの意味が理解できれば、テキスト終了後も新しい漢字を覚える時に有用であると考えられる。

しかし『漢字英語版』をテキストとして使うにあたり、さらに検討しなければならない点として以下の3点があげられるだろう。

- 1) 『漢字英語版』の学習漢字が福井大学の留学生にとって適切な選定か
- 2) 漢字の成り立ち、部首をどのように教えるか
- 3) 漢字の音読み・訓読みの教え方

上記1)～3)の点について、『漢字英語版』を使う上での改善点を探るため、『みんなの日本語初級I』に影響を受けていない漢字学習用のテキスト2冊と比較する。1冊は『ESSENTIAL KANJI FOR EVERYDAY USE』である。これは学業や論文執筆にほとんど日本語を必要としない留学生が、大学内外で円滑に生活できるようにすることを目的として作成されている。それゆえ、生活上必要な漢字が網羅されているはずであり、この教材と比較することによって『漢字英語版』には取り上げられていない重要な漢字語がわかると考えられる。

他の1冊は非漢字系の学習者が効率的に、かつ体系的に漢字が学べるよう作成された『基本漢字500 BASIC KANJI BOOK VOL.1』(以下『BASIC KANJI BOOK』とする)である。

#### 4-2-1. 学習漢字の選定

『漢字英語版』と『漢字練習帳』とで共通に取り上げられている漢字は187字である。

『漢字英語版』でのみ取り上げられている漢字は33字、『漢字練習帳』でのみ取り上げられている漢字は31字である。(資料3参照)つまり、教材を『漢字練習帳』から『漢字英語版』に変えたことで、学習対象から外れた漢字は以下31字である。

門、始、世、界、顔、耳、品、問、答、心、配、場、登、不、用、民、正、特、  
牛、林、森、試、験、文、歳、留、議、散、浴、欲、億

上記の31字の中で『ESSENTIAL KANJI FOR EVERYDAY USE』で取り上げられているのは以下の12字である。

始、留、文、正、特、門、験、議、用、不、品、場

福井大学も学業や論文執筆に日本語を必要としない留学生が多い。それゆえ、留学生が生活に必要な漢字として、上記12字と「福」、「井」を追加した14文字を選定漢字に加えるのが有用ではないだろうか。

学んだ漢字が生活で役立つという実感を伴えば、次の段階に向けて継続的に漢字を学習しようという動機付けになると思われる。

#### 4-2-2. 漢字の成り立ち・部首をどのように教えるか

『漢字英語版』は「Part I : Introduction to kanji」で象形文字の説明を、「Part II : Introductory

lessons」で形声文字の説明をし、「PartⅢ：Main lessons」から個々の漢字の学習が始まる。象形文字も指事文字も「絵から漢字ができました」とまとめている。会意文字についての説明はない。『みんなの日本語初級Ⅰ』のテキストと併用して使われることを考慮してこのように作成されているが、体系的説明の部分が不足していると感じる。特に形声文字の説明がわかりにくいと思われる。

『BASIC KANJI BOOK』は基本漢字 500 字を選定し、Volume 1 でその内の 251 字を取り上げている。Volume 1 は構成として 1、2、6、7 課は象形文字、3 課は漢数字、4 課は指事文字、5 課は会意文字、8 課は形容詞の漢字、9 課は動詞の漢字、10 課は時を表す漢字と続き、11 課から部首を取り上げている。

日本語Ⅱクラスで『漢字英語版』を使う場合は、『BASIC KANJI BOOK』のように、漢字学習と並行して漢字の成り立ちを説明したほうがわかりやすいのではないだろうか。

象形文字は理解しやすく、また、偏などの部首の元になる字も多い。漢字の成り立ちとして、象形・指事・会意・形声のうち、まず、象形文字について説明するべきだと思う。『BASIC KANJI BOOK』のように、絵からどのように漢字になっていったかを示すとわかりやすい。

指事文字の説明は『BASIC KANJI BOOK』に習って、「記号からできた漢字」とし、「上、中、下、大、中、小、半、分」等の学習がすんだ 7 課の後に入れるとよいと思う。同様に、会意の説明としては、『BASIC KANJI BOOK』で使っている「意味の組み合わせからできた漢字」を使い、「休、好、男、」の学習がすんだ 8 課の後に入れる。そして 9 課から『漢字英語版』の「漢字博士」というコーナーで取り上げられている部首の説明を始めるとよいのではないかと思う。

#### 4-2-3. 音読み・訓読みの教え方

『漢字英語版』は漢字によって音読み・訓読みの取り扱いにばらつきがある。例えば、「来」は「来年」と「来ます」、音・訓両方が提示されているが、曜日の名前を導入するとき、月・火・水などの訓読みは示していない。訓読みがわかると意味がわかり、新しい熟語を見たとき類推のヒントになるので、音読みだけでなく、訓読みもできるだけ同時に教えたほうがよいと思う。『漢字英語版』に音・訓一方しか示していない場合でも、学習済みの言葉を使って可能な限り、音・訓同時に教えていくほうが効率がよいと考える。例えばユニット 9 の「話」は「電話」しかないが、既習語の「はなします」も同時に教えるべきだと思う。

### 5. 学習者への聞き取り調査

日本語Ⅱのクラスには非漢字系学習者と漢字系学習者が混在している。そのため、両者のニーズにあった漢字指導が行われているかについて、学習者から直接意見を聞いた。

#### 5-1. 調査概要

対象：2008 年後期授業を受けた学生、9 名。

漢字系 6 名、非漢字系 3 名（フランス、フィリピン、パキスタン）

方法：個別聞き取り調査。

調査時期：2009年7月13～22日

調査者：全学向け日本語Ⅱ担当教員3名

質問項目：教え方に関する項目が①～⑥の6項目、テストに関する項目が⑦～⑧の2項目、その他が⑨～⑩の2項目である。具体的な項目は以下のとおりである。

<教え方について>

- ① 現在1日5～6字だが、この字数でいいかどうか
- ② 読み方の指導だけだが、書き方も学びたいかどうか
- ③ フラッシュカードを使った今のやり方で覚えやすいかどうか
- ④ 漢字にかける時間は今ぐらいでいいかどうか
- ⑤ 復習の時間が4コマごとに設けてあるが、このとき復習プリントがあったほうがいいのかどうか
- ⑥ 以上のほかに教え方に関して何か希望があるか

<テストについて>

- ⑦ 漢字系と非漢字系のテスト形式に違いがあるが、現状でいいかどうか
- ⑧ 復習テスト・期末テストの配点に含まぬ今のやり方でいいかどうか

<そのほか>

- ⑨ 漢字学習全般について、どういう勉強をしているのか（あるいはしていないのか）
- ⑩ 読めない漢字に出会った際にどうしているのか（電子辞書を使っているのかなど）

## 5-2. 調査結果

調査結果を資料4に示す。

非漢字系の学習者は1日に教える漢字字数について全員「ちょっと多い」、また「漢字学習に費やす時間が短い」と回答している。今後漢字学習にかける時間をもう少し長くしたい。フラッシュカードを使った教え方、復習のプリント、テストの仕方については「このままでよい」との回答で、現在の漢字指導を学習者は評価していると考えられる。

非漢字系の学習者から漢字の字源を知りたいとの希望があった。時間的に学習漢字のすべてに対して、字源や覚え方を説明するのは難しいと思うが、今まで以上に絵や図を使って、学生の興味を引く努力が必要であろう。

2007年前期に現在の体制で漢字教育を始めるとき「読み」のみを学習し、書く練習は行わないことにした。しかし、聞き取り調査によると非漢字系の学習者すべてと、漢字系の学習者の半分が書き方も学びたいと回答していた。漢字系の学生が書き方を学びたい理由は、常用漢字の字体と中国で使う簡体字が違う場合があるということであった。調べてみたところ、資料5に示すように『漢字英語版』の220字のうち52字の字体が異なっている。指摘しないと同じ文字だと思いつく可能性もあるような微妙な違いの字もある。今後は書き方指導も取り入れたいと考える。

## 6. まとめ

『漢字英語版』をテキストとして福井大学の日本語Ⅱクラスに漢字指導を行うという視点から、4つの改善点をあげたい。

第1に、生活に役立つと思われる漢字「始、留、文、正、特、門、験、議、用、不、品、場、福、井」を加えることである。

第2に漢字の成り立ちを段階的に説明することである。象形文字は理解しやすく、また、偏などの部首の元になる字も多い。漢字の成り立ちとして、象形・指事・会意・形声のうち、まず、象形文字について説明するべきだと思う。指事文字の説明は『BASIC KANJI BOOK』にならって、「記号からできた漢字」とし、「上、中、下、大、中、小、半、分」等の学習がすんだ7課の後に入れるとよい。同様に、会意の説明としては、『BASIC KANJI BOOK』で使っている「意味の組み合わせからできた漢字」を使い、「休、好、男、」の学習がすんだ8課の後に入れる。そして9課から『漢字英語版』の「漢字博士」というコーナーで取り上げられている部首の説明を始めるとよいと思う。

第3に『漢字英語版』に音・訓一方しか示していない場合でも、学習済みの言葉を使って可能な限り、音・訓同時に教えることである。訓読みがわかると意味がわかり、新しい熟語を見たとき類推のヒントになるからである。

第4として、漢字系の学習者が多い日本語Ⅱクラスでは、常用漢字と中国で使う簡体字で字体の違いがある文字があることを教えるため、書き方の指導も取り入れるべきである。

今後も留学生に対する漢字指導を続けながら、本稿で見えてきた問題点・課題を追求してし、福井大学の留学生のニーズにあった漢字指導の進め方を模索していきたいと考えている。

### <引用文献>

石田順子・西野章代・山崎佳子 1993 『ESSENTIAL KANJI FOR EVERYDAY USE 生活の中の漢字 VOLUME ONE』 TUTTLE PUBLISHING

加納千恵子・清水百合・竹中弘・石井恵理子 1995 『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL. 1』 凡人社

新矢麻紀子・古賀千世子・高田亨・御子神慶子 2003 『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字英語版』 スリーエーネットワーク

室岡由美・山田純子・金瀬真知子・細井陽子 2006 『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字練習帳』 スリーエーネットワーク

資料1 『みんなの日本語初級Ⅰ 漢字練習帳』を使ったときの学習予定例

2008年後期全学向け日本語Ⅱ				
月	火	水	木	金
10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日
数 一～十	1・2課 人・名・方・日・本	1・2課 何・大・学・会・社	1・2課 先・生・行・来・自・車	1・2課 復習
26課 A1～3	26課 A1・4～6	27課 A1～3・5	27課 A4・6・7	28課 A1・2
10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日
3・4課 円・百・千・万・毎	3・4課 時・分・半・国・書	3・4課 月・火・水・木・金・土	3・4課 復習	5・6課 年・友・今・週・休
28課 A3～5	26～28課復習	29課 A1・2	29課 A3・4	30課 A1・2
11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日
休み	5・6課 前・午・後・校・帰	5・6課 見・聞・読・食・飲・買	5・6課 復習	7・8課 父・母・物・朝・昼
	30課 A3・4	31課 A1～4	31課 A5～6	29～31課復習
11月10日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日
7・8課 夜・晩・町・山・白	7・8課 赤・青・黒・安・高・小	7・8課復習	9・10課 男・女・上・下・左・右	
32課 B1～4	32課 B5・6	33課 A1～3	33課 A4・5	26～33復習
11月17日	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日
	9・10課 中・門・間・近・魚	9・10課 手・犬・早・計・外	9・10課 復習	11・12課 兄・姉・弟・妹・家・族
26～33復習テスト	34課 A1・2	34課 A3・4	35課 B1・2・5・6	35課 B3・4・7・8
11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日
休み	11・12課 春・夏・秋・冬	11・12課 天・気・多・少・元・歩	11・12課 復習	13・14課 出・入・広・止・始・開
	36課 A1～3	36課 A4～6	37課 A1～3	37課 A4～7
12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月5日
13・14課 海・川・世・界・画・映	13・14課 花・茶・英・語	13・14課 復習	15・16課 口・体・足・顔・耳・目	15・16課 立・知・住・思・使
34～37課復習	38課 A1～3	38課 A4・5	39課 A1～3	39課 A4
12月8日	12月9日	12月10日	12月11日	12月12日
15・16課 作・品・長・明・肉	15・16課 復習			17・18課 子・問・答・心・配・売
40課 A1・2	40課 A3	34～40課復習	34～40課復習テスト	41課 A1～4
12月15日	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日
17・18課 場・漢・字・料・理	17・18課 主・着・新・古・持	17・18課 復習	19・20課 電・話・音・楽・歌・度	19・20課 教・習・貸・借・送
41課 A5～7	42課 A1	42課 A2～4	43課 A1・2	43課 A3
12月22日	12月23日	12月24日	12月25日	12月26日
19・20課 勉・強・旅・室・登	休み	19・20課 復習	21・22課 言・不・同・意・仕・事・病・院	冬休み
41～43課復習		44課 A1～4	44課 A5～7	
1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日
冬休み	冬休み	冬休み	21・22課 医・者・堂・屋・有・用・店・民	21・22課 復習
			45課 A1	45課 A2
1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日
休み	23・24課 正・銀・函・館・道・動・建・特	23・24課 終・駅・写・真・牛・員・林・森	23・24課 復習	休み
	46課 B1～4	46課 B5・6	44～46課復習	
1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日
25課 田・考・親・切・試・験・部・文	25課 歳・留・議・散・欲・降・浴・億	25課 復習		
47課 A1	47課 A2	48課 B1～3	48課 B4～6	47～48課復習
1月26日	1月27日	1月28日	1月29日	1月30日
41～48課復習	41～48課復習テスト	総復習	期末試験	

- ※ 月日の下はその日の学習漢字を示す。2段目は『みんなの日本語初級Ⅱ』の学習範囲を示す。
- ※ 1月22日以降は漢字学習は行なわなかった。



資料2 『みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語版』を使ったときの学習予定例

2009年前期全学向け日本語Ⅱ

月	火	水	木	金
4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日
26課A1~3	26課A4~6	27課A1~4	27課A5~7	28課A1~2
4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日
	日・月・火・水・木		金・土・山・川・田	一・二・三・四・五・六・七
29課A3~5	26~28復習	休み	29課A1~2	29課A3~4
5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日
			八・九・十・百・千・万・円	復習1・2
休み	休み	休み	30課A1~2	30課A3~4
5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日
学・生・先・会・社・員	医・者・本・中・国・人	今・朝・昼・晩・時・分・半	午・前・後・休・毎・何	復習3・4
31課A1~4	31課A5~6	32課A1~2	32課A3	29~31課復習
5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日
行・来・校・週・去・年	駅・電・車・自・転・動	高・安・大・小	新・古・青・白・赤・黒	復習5・6
26~32課復習	小テスト①26~32課	33課A3~5	34課A1~2	34課A3~4
5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日
上・下・父・母・子・手・好	主・肉・魚・食・飲・物	近・間・右・左	外・男・女・犬	
32~34復習	35課B1~3、5・6	35課B4・7・8	36課A1~4	大学祭のため休み
6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日
	復習7・8	書・聞・読・見・話	買・起・帰・友・達	茶・酒・写・真・紙
大学祭のため休み	36課A5・6	37課A1~3	37課A4~7	35~37課復習
6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日
映・画・店・英・語	復習9・10	送・切・貸・借・旅	教・習・勉・強・花	歩・待・立・止・雨
38課A1~3	38課A4・5	39課A1~3	39課A4	40課A1~2
6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日
入・出・売・使・作	復習11・12	明・暗・広・多・少	長・短・悪・重・軽・早	便・利・元・気・親
40課A3	38~40課復習	33~40課復習	小テスト②33~40課	41課A1~4
6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日
有・名・地・鉄・仕・事	復習13・14	東・西・南・北・京・夜	料・理・口・目・足・曜	降・思・寝・終・言
41課A5~7	42課A1	42課A2・3	43課A1~2	43課A3
6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日
知・同・漢・字・方	復習15・16	図・館・銀・町・住・度	服・着・音・楽・持	春・夏・秋・冬・道・堂・建
41~43課復習	44課A1~4	44課A5~7	45課A1	45課A2
7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日
病・院・体・運・乗	復習18・19	家・内・族・兄・弟・奥	姉・妹・海・計	部・屋・室・窓・開・閉
46課A1~3	46課A4・5	44~46課復習	47課A1	47課A2
7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日
歌・意・味・味・天・考	復習19・20	ユニットクイズ1・2	ユニットクイズ3・4	ユニットクイズ5・6
48課A1~3	48課A4	47・48課復習	41~48課復習	小テスト③41~48課
7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日
ユニットクイズ7・8	ユニットクイズ7・8	ユニットクイズ9・10	ユニットクイズ11・12	ユニットクイズ13・14
休み	29課復習	35課復習	37課復習	48課復習
7月27日	7月28日	7月29日		
ユニットクイズ15・17	ユニットクイズ18~20			
総復習	総復習	期末試験		

※ 第1週目は漢字学習は行わなかった。

※ 漢字は1ユニットを2回で行い、2ユニット毎に復習を設けた。

資料3

『みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語版』と『みんなの日本語漢字練習帳Ⅰ』で  
取り上げている漢字の対照表

<p>二つのテキストで共通している漢字 (187字)</p>	<p>『みんなの日本語漢字練習帳Ⅰ』で のみ取り上げている漢字 (31字)</p>
<p>一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 人 名 方 本 日 何 大 学 会 社 先 生 行 来 自 車 百 千 万 円 毎 時 分 半 国 月 火 水 木 金 土 書 友 年 今 週 休 前 午 後 校 帰 見 聞 読 食 飲 買 母 父 物 朝 昼 夜 晚 町 山 白 赤 青 黒 安 高 小 男 女 上 下 左 右 中 間 近 魚 手 犬 早 計 外 兄 弟 姉 妹 家 族 春 夏 秋 冬 気 天 多 少 元 歩 入 出 広 止 開 海 川 画 映 花 茶 語 英 体 足 口 目 立 知 住 思 使 作 長 明 肉 子 売 字 漢 料 理 主 着 新 古 持 電 話 音 楽 歌 度 教 習 貸 借 送 強 勉 旅 室 同 言 意 事 仕 病 院 医 者 堂 屋 有 店 銀 函 館 道 動 建 終 駅 写 真 員 田 考 親 切 部 降</p>	<p>門 始 世 界 顔 耳 品 問 答 心 配 場 登 不 用 民 正 特 牛 林 森 試 験 文 歳 留 議 散 浴 欲 億</p> <p>『みんなの日本語初級Ⅰ漢字英語 版』でのみ取り上げている漢字 (33字)</p> <p>去 転 好 起 達 酒 紙 待 雨 暗 短 悪 重 軽 便 利 地 鉄 東 西 南 北 京 曜 寝 服 運 乗 内 奥 窓 閉 味</p>

資料4 漢字学習に関するインタビュー結果

教え方について	漢字圏	非漢字圏
①現在1日5~6字だが、この字数でいいか	現在のままでよい(3) もっと多くてもよい(3)	ちょっと多い(3)
②読み方の指導だけが、書き方も学びたいか	読み方だけでよい(3) 書き方も学びたい(3)	書き方も学びたい(3)
③フラッシュカードを使ったやり方で覚えやすいか	覚えやすい(全員)	覚えやすい(全員)
④漢字にかける時間は今ぐらいでいいか	今ぐらいでよい(5) もっと短くてよい(1)	短い(3)
⑤復習プリントがあったほうがいいか	あったほうがよい(3) 要らない(3)	あったほうがよい(3)
⑥以上のほかに教え方に関して何か希望があるか	もっとレベルの高い漢字を勉強したい(1) 詩や俳句をやりたい(1)	授業中にボードに書く言葉は、全て振り仮名付きで漢字を書いてほしい(1) 漢字のoriginを知りたい(2) 宿題や漢字ゲームがあったほうがよい(1)
テストについて		
⑦漢字系と非漢字系のテスト形式に違いがあるが、現状でいいか	現在のままでよい(全員)	現在のままでよい(全員)
⑧復習テスト・期末テストの配点に含ませぬ今のやり方でいいか	含んだほうがよい(3) 含まないほうがよい(3)	含んだほうがよい(2) 含まないほうがよい(1)
そのほか		
⑨漢字全般について、どういう勉強をしているのか(あるいはしていないのか)	わからない漢字があったら調べて覚える(2) 雑誌やインターネット2chや小説を読む(1) 『みんなの日本語』を読んで勉強している(1) 特にしていない(2)	『みんなの日本語』の漢字を小さいメモに書いて、いつも見ている(1) 『みんなの日本語』の漢字テキストを持っているので、時々見ている(1) 授業でもらったプリントを家で見ている(1)
⑩読めない漢字に出会った際にどうしているのか(電子辞書を使っているのかなど)	電子辞書を使っている(3) 意味がわかるので、正しく読めなくてもあまり気にならない(3) 近くの日本人に聞く(3) Yahooの辞書で調べる(3)	日本人に聞く(1) インターネットを使い、画数で調べる(1) コンピューター(IMEパッド)やI-Phoneで調べる(1)

資料5

『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』の中で常用漢字と簡体字で字形に違いのある漢字

常用漢字	簡体字	常用漢字	簡体字	常用漢字	簡体字	常用漢字	簡体字	常用漢字	簡体字
員	员	飲	饮	画	画	軽	轻	乗	乘
今	今	間	间	語	语	気	气	計	计
晩	晚	書	书	貸	贷	親	亲	窓	窗
時	时	聞	闻	旅	旅	鉄	铁	開	开
週	周	読	读	習	习	東	东	閉	闭
駅	站	見	见	勉	勉	終	终		
電	电	話	话	強	强	漢	汉	友達	朋友
車	车	買	买	歩	步	図	图	姉	姐姐
転	转	達	达	売	卖	館	馆	貸す	借
動	动	写	写	広	广	銀	银	食べる	吃
黒	黑	真	真	長	长	楽	乐	書く	写
魚	鱼	紙	纸	悪	恶	運	运	本	书

※ 『免』は日本語は8画だが、簡体字は7画。『旅』は日本語は10画だが、中国語は9画。

※ 中国語の『借』は『貸す』『借りる』の両義。

※ 特に『晩、写、真、旅、画、勉、強、歩、鉄、銀』は常用漢字と簡体字の違いが微妙である。

※ 『友達』以下は違う漢字を使う例をいくつか挙げた。

Kanji Teaching in the Zengakumuke Nihongo course  
—A Case Study of Kanji Teaching for Japanese Language Learners  
in the Pre-intermediate Level—

TAKASE Kimiko, SUYA Syoko, SAITO Masumi, KUWABARA Yoko

The Zengakumuke Nihongo course, one of the Japanese language courses available at the International Student Center of Fukui University, has four levels from the Nihongo I class for beginners to the Nihongo IV class for advanced learners. In this course, kanji teaching starts in the Nihongo II class. In this paper, one of the topics discussed is the process by which we have taught our current method for learning kanji. In addition, the paper investigates effectual kanji teaching for Japanese learners from both a kanji and a non-kanji background. As for the kanji textbook, we now use 「Minna no Nihongo Kanji I (English Edition)」. Through an analytical comparison of a few kanji textbooks and individual interviews with students, four methods for improving kanji teaching have been found. At first, useful kanji for daily use should be introduced to make the students life more convenient. The following kanji 「始、留、文、正、特、門、験、議、用、不、品、場、福、井」 should be added to the textbook. Secondly, an explanation of how kanji are composed should be given step by step. Thirdly, On-Kun (音・訓) readings should be taught at the same time by reminding students of words that they have already learned. Finally, to teach how to write kanji is also important even for learners from a kanji background because some of the kanji characters used in China are simplified and different from the ones used in Japan.

Key words : kanji teaching, Japanese learners with a non-kanji background and a kanji background, selecting kanji characters for students to learn,